

特集 『アイヌの人たちの文化』より

蝦夷文化考古館

町民文芸

まぐべつ

第25号・2009

昭和34年、吉田菊太郎が中心になって建てたものである。
通称「千住考古館」とも呼ばれる。

千住はかつて白人村であった。
今から約200年前にコタンがあり、十数戸住んでいたが、その後十勝川に散在していた同族が
集まり戸数が増えたと伝えられている。

昭和11年、天皇が北海道行幸の際に白人コタンに勅使差遣があり、これを記念してできたのが
考古館横にある記念碑である。

昭和34年、吉田菊太郎はアイヌ文化の保存を目的として北海道アイヌ文化保存協会を組織し、
アイヌの文化財を収集して保存するために蝦夷文化考古館をコタンゆかりの千住に建設した。

収集された古俗品や宝物類は、管内はもちろん、道内、東京までも出向いて手に入れたもので
ある。

考古館に陳列されたものは刀や弓、酒桶等古代アイヌの使用した民俗品、宝物類そして
アイヌ関連の文献等である。

吉田氏の死去により、建物ごと町に無償で寄付された。

